

## 北上川【主要魚介類の確認状況】

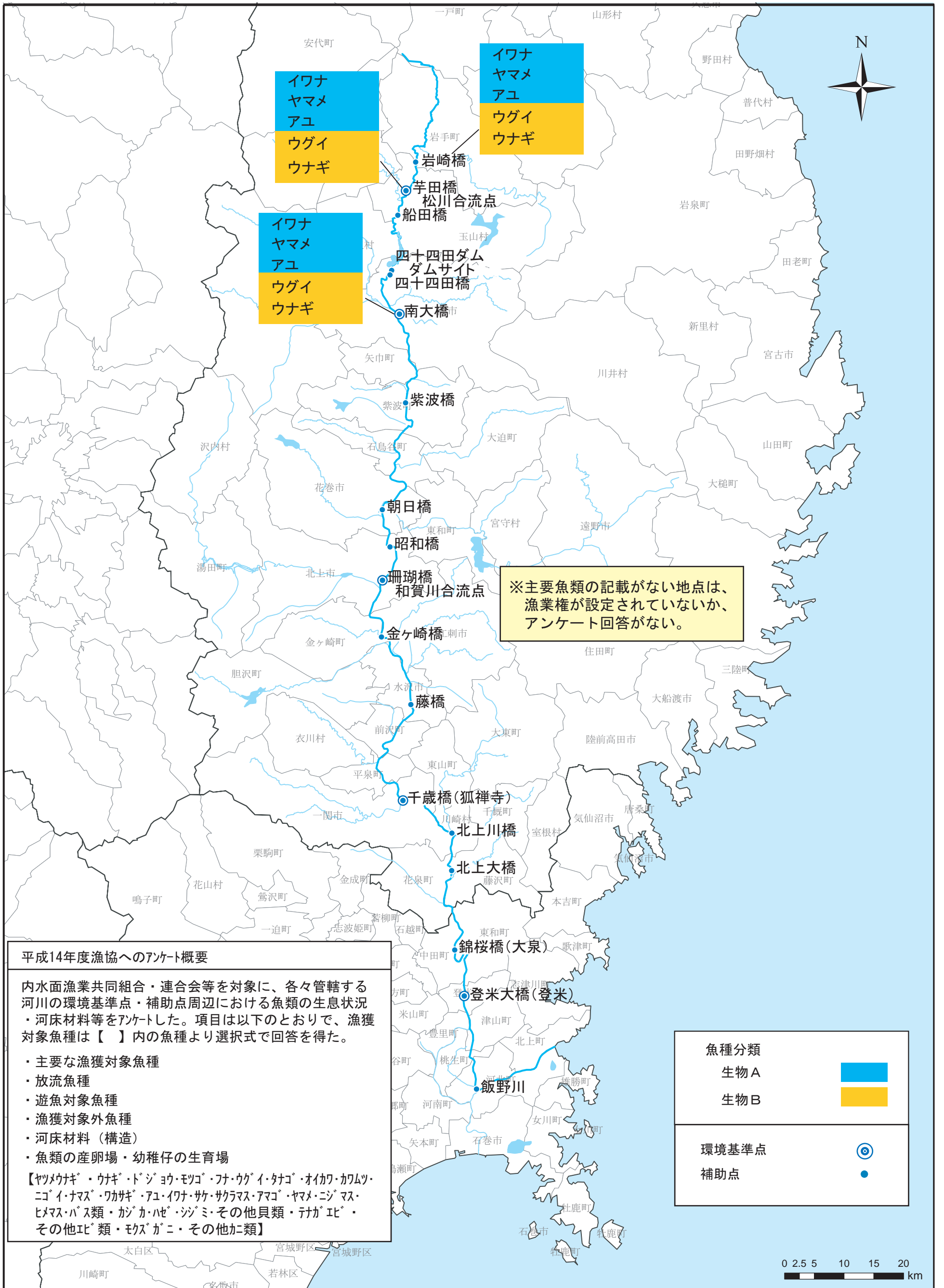
国土交通省 平成12年度「河川水辺の国勢調査」  
国土交通省 平成13年度「河川水辺の国勢調査」  
(四十四田ダム)より作成

## 北上川魚介類出現状況

項目・分類・科・種名			調査地点	四十四田ダム	開運橋	紫波橋	桜木橋	大曲橋	北上大橋	
生物A	魚類	キュウリウオ科	ワカサギ							
		キュウリウオ科	アユ							
		サケ科	アメマス(エゾイワナ)							
		サケ科	サケ							
		サケ科	ヤマメ							
生物B	魚類	コイ科	オイカワ							
		コイ科	ウグイ							
		コイ科	コイ							
		コイ科	ギンブナ							
		コイ科	ゲンゴロウブナ							
		ドジョウ科	ドジョウ							
		ナマズ科	ナマズ							
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)							
	甲殻類	テナガエビ科	スジエビ							
		ヌマエビ科	ヌカエビ							
	対象外	魚類	コイ科	アブラハヤ						
			コイ科	タモロコ						
			コイ科	ホンモロコ						
コイ科			モツゴ							
コイ科			ビワヒガイ							
コイ科			カマツカ							
コイ科			ゼゼラ							
コイ科			ニゴイ							
コイ科			タイリクバラタナゴ							
コイ科			キンギョ							
ドジョウ科			シマドジョウ							
バス科			オオクチバス							
ハゼ科			ウキゴリ							
甲殻類			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ						

分類体系は山溪カラー図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典: 国土交通省、河川水辺の国勢調査、2000年度夏・秋調査  
 調査機関・名称・年度 国土交通省、河川水辺の国勢調査、2001年度6月・9月(四十四田ダム)



※主要魚類の記載がない地点は、  
漁業権が設定されていないか、  
アンケート回答がない。

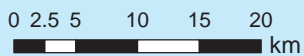
平成14年度漁協へのアンケート概要

内水面漁業共同組合・連合会等を対象に、各々管轄する河川の環境基準点・補助点周辺における魚類の生息状況・河床材料等をアンケートした。項目は以下のとおりで、漁獲対象魚種は【 】内の魚種より選択式で回答を得た。

- ・ 主要な漁獲対象魚種
- ・ 放流魚種
- ・ 遊魚対象魚種
- ・ 漁獲対象外魚種
- ・ 河床材料（構造）
- ・ 魚類の産卵場・幼稚仔の生育場

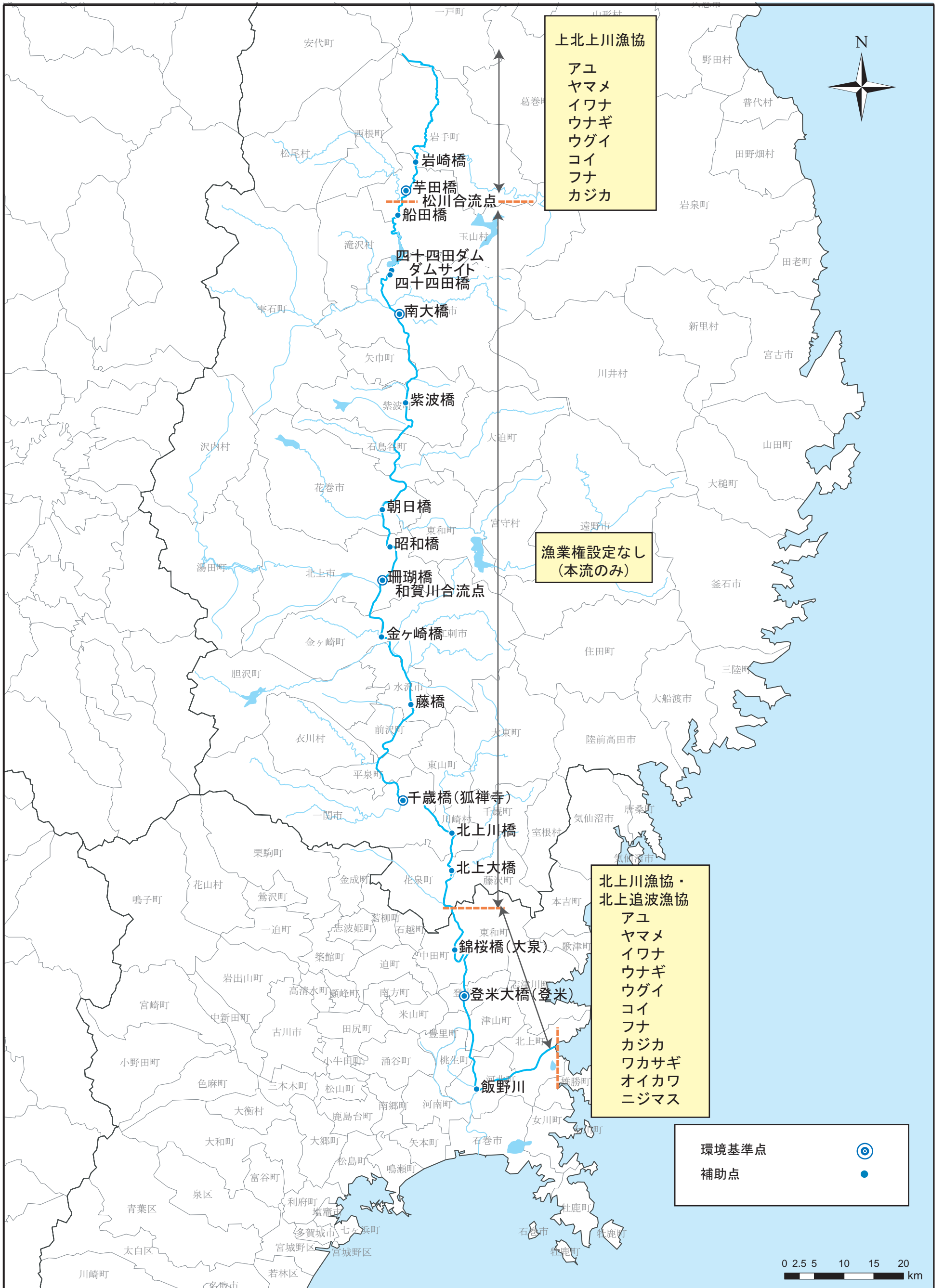
【ヤツメウナギ・ウナギ・ドジョウ・モツゴ・フナ・ウグイ・タナゴ・オイカワ・カラムシ・ニゴイ・ナマス・ワカサギ・アユ・イワナ・サケ・サクラマス・アマゴ・ヤマメ・ニジマス・ヒメマス・バス類・ガジ・カハゼ・シジミ・その他貝類・テナガエビ・その他エビ類・モズガニ・その他カニ類】

魚種分類	
生物A	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:blue;"></span>
生物B	<span style="display:inline-block; width:15px; height:10px; background-color:yellow;"></span>
環境基準点	<span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; border:1px solid blue; border-radius:50%;"></span>
補助点	<span style="display:inline-block; width:5px; height:5px; background-color:blue;"></span>



## 北上川【主要魚介類の確認状況(アンケート)】

平成14年度に実施した漁業協同組合へのアンケート結果より



※漁業権は本流及び一部支流に各々設定されている。  
ここでは本流での設定状況を示した。

## 北上川【漁業権設定状況】

岩手県・宮城県資料より作成

北上川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者への  
ヒアリング結果の整理（案）

対象ゾーン	流域全般	中流・下流域・その他(支流など)	上流域
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「資料」の出現魚種で妥当であるが、本流で確認されたヤマメは支流から下ったものと考えられる。</li> <li>・ 本流ではアユが生活史に合わせて下流及び上流へ移動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中流域はアユ・アブラハヤ・ウグイ・モツゴ・コイ・ギンブナ等が生息する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流域は河床が砂質、河床勾配が緩く、ギバチ、オイカワなどが生息しやすい環境を呈する。</li> </ul>
再生産に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本流に産卵等の保護水面は無い。</li> <li>・ 本流の河床材料は四十四田ダム上流が砂、下流が大きな石で構成されており、これら河床材料からみてヤマメ・アメマス等の再生産は困難である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヤマメ等は低水温の支流にて再生産していると考えられる。</li> </ul>	
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本流ではアユ・ウグイ等を放流。</li> <li>・ 本流ではヤマメ・イワナ等の放流は無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヤマメ・イワナ等は支流にて放流している。</li> </ul>	
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人為的な影響を受けている河川。</li> <li>・ 松尾鉱山由来の酸性廃水により北上川の動植物は影響を受けた。中和処理施設ができ、以後継続処理されている。</li> <li>・ 四十四ダムにより河川が分断している。</li> <li>・ 生活排水、農地排水の影響を受けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中流域には瀬と緩流域があり、瀬は径 10-20cm の礫、緩流域は砂質から成っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流域は河床が砂質、河床勾配が緩く、中流域に近い河川構造を呈する。</li> </ul>
過去の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昭和 37 年（1962）時点、北上川の本流と赤川合流点から花巻までは魚類の無生息域であった</li> <li>・ 現状の種類数は昭和 30 年代の種類数とほぼ同じだが、個体数量は少ない。</li> <li>・ 中和処理施設ができ、昭和 53 年（1978）には四十四田ダム下流で数種の魚類を確認し、最近ではダム下流までアユが良く遡上している。</li> <li>・ ヒガイ・ゼゼラ等在来種以外の種の人為的移入により種類数増加している。</li> <li>・ 1980 年代にブラックバスが放流され、コイ科の小型魚が減少している。</li> </ul>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北上川本流には最上流及び県境から河口まで漁業権が設定されているが、それ以外の本流には漁業権が設定されてない。</li> <li>・ 水沢地域から県南域ではマスがこの許可漁業が実施されている。</li> </ul>		



四十四田ダム  
国土交通省  
北上川ダム統合管理事務所ホームページより



岩崎橋 上流



南大橋 上流



紫波橋 上流



昭和橋 上流



金ヶ崎橋 上流



北上川橋 下流



登米橋 上流



飯野川橋 上流

北上川の状況